

おあぞら

第17号

・発行
安来地区保護司会

・事務局
安来市西赤江町374
TEL (0854) 28-8700

題字 佐々木 實

茶畑(伯太・上の台)



安来地区保護司会
会長 近藤 佳郎

前回の第二十二回島根県更生保護大会は平成二十一年十月に江津市で開催され、安来地区の保護司、更女の皆さんと一緒に参加しました。あれから五年、この度は第二十三回大会を安来市で開催となりました。

本大会は、松江保護観察所を初め十一の団体が一つになり主催し、地元安来市のご協力、支援を頂き、盛大に挙行出来ましたこと地元保護司会として衷心よりお礼申し上げます。

殊に会場になりました安来市民会館は、移築を目前に控え十一月末で閉館となりましたので、この県大会が市民会館最後の大きな催しとなり、感慨ひとしおであります。

この県大会は、五年毎に県下の地区保護司会所在地を会場として開催され、県下の更生保護関係者が一堂に会し、当面する諸問題について研鑽を深め、意識の

統一と士気の高揚を図ると共に、功労者の顕彰を行い、更生保護事業の一層の充実発展を期すものであります。この機会にあたり、保護司が担っている使命を見つめ直し、明日への活動の基としたいと思います。

今夏のある日、町の医院の待合室で順番を待っていました。すると向いに座っておられた方から声をかけられました。

「その節は、大変お世話になり、ありがとうございます。」

数年前、受け持った対象者のお父さんでした。その言葉に嬉しく、有難く感動しました。その後、息子さんは立ち直り、元気に働いていると伺い安堵しました。息子さんは、無口でしたが、面接を重ねるうちに、自分の心境を話してくれるようになりました。私は、ひたすら傾聴に努めました。その青年が立ち直ってくれたことを知り、無上の喜びでした。

この度の大会を機に、お互いの絆を深め、共に携えあって「明るい社会づくり」に励みましよう。

更生保護制度施行六十五周年記念

第二十三回 島根県更生保護大会開催

平成二十六年十一月二十日、安来市市民会館において更生保護関係者約五百五十人が参加し、記念式典が開催されました。午前中は、安来節家元による清興「安来節」に続き、高尾雅裕氏（山陰中央新報論説副委員長）の記念講演『人口減少社会と島根の現状』『消滅』しないための処方箋』を拝聴しました。



午後の式典は、坂本圭祥島根県保護司会連合会会長の式辞、中村明英松江保護観察所長の挨拶に続いて、永年にわたり更生保護事業に功労のあった方々の表彰状、感謝状が贈呈されました。表彰者を代表して法務大臣表彰受賞者の当地区岩田拓郎氏が謝辞を述べられました。

その後、来賓としてご臨席いただいた久保貴中国地方更生保護委員会委員長、稲葉重子松江地方・家庭裁判所長、奥村淳一松江地方検察庁検事正、溝口善兵衛島根県知事、近藤宏樹安来市長の方々から謝辞をいただきました。最後に、吉長義親島根更生保護会理事長の万歳三唱により式典を終了しました。

地方開催ということで、会長を中心に準備を進めてきました。前日も含めて天候に恵まれ、大きなトラブルもなく無事に終えることができて地元関係者はほっとしています。現在の市民会館は間もなく建て替えのため取り壊しが始まるようです。市民会館にとっても大きなイベントはこれが最後だったそうです。県保護司会連合会、観察所の皆様をはじめ関係者各位にはたいへんお世話になり、ありがとうございました。



(事務局)

【学校訪問】

「いのち」と「気づき」

金崎校長先生に聴く

会長 近藤 佳郎

十一月十日、安来地区学校担当の小村保護司とともに安来第三中学校を訪問しました。

三中は荒島に近い小高い丘の上にあり、東に秀峰大山が望めます。「晴れ渡った大山が見られるのは、一年に数日しかありません」と金崎智枝校長先生は話されました。眺望のよい明るい校長室で、お話しを伺いました。



青少年赤十字精神を基底に平成二十四年に青少年赤十字に加盟し、「気づき、考え、実行する」という態度目標と「生命と健康を大切にする」「人間として社会のため、人に尽くす責任を自覚し、実行する」「広く世界の青少年を知り、なかよく助け合う精神を養う」という実践目標を、生徒会活動を始めとした様々な活動の柱として取り組んでいます。

いのちの学習

赤十字精神を精神論にとどめず、日々の生活の中で具体的な活動に活かし、身につけるための学習を展開しています。防災学習では、それを「自助」「公助」「共助」の視点から、各学年毎に取り組んでいます。

生徒の学習

生徒の自治的な活動を重視し、様々な学習形態を



取り入れていきます。ボランティア活動

生徒に体験活動を通して、公共の福祉や社会を支えている人々の活動を知り、自分にできることを考え、よい社会の実現のために貢献しようとする態度や実践力を培うことを目的としています。「地域行事」「福祉」「清掃」「防災」等の分野でボランティア活動を行っています。

交流活動

国や背景の異なる人々との交流を通して、お互いの立場や思いを理解すると共に仲よく助け合う精神を養います。

具体的には、「青少年赤十字メンバールー・リーダーシップトレーニンングセンター」への参加、「モンゴル青少年赤十字メンバールーとの交流」「北方四島交流訪問事業」による択捉島訪問等を行いました。

※短い時間でしたが、金崎校長先生の中学校教育にかける情熱の一端を伺わせて頂き、ありがとうございました。

第六十四回 社明大会



安来市は、推進大会実施委員会を設置し「社会を明るくする運動、青少年の非行・被害防止全国強調月間安来市推進大会」を七月四日（金）、伯太中央交流センターにおいて開催いたしました。

当日は、約二百五十人の参加があり、盛会に開催することができました。

大会では、松江保護観察所長および安来警察署長から「犯罪や非行のない安全で安心な地域社会を築こう」とのメッセージが市長に対し伝達されました。

つぎに、小中学生を対象に毎年県内で実施されている「社会を明るくする運動作文コンテスト」において優秀賞を受賞された、安来市立第一中学校一年生の山崎光翔さんと西原勇翔さんから「言葉の大切さ」について発表いただき好評を得ました。

また、基調講演では、「島根いのちの電話」で理事・研修委員長として活躍されている若杉陽先生を講師に迎え、「心を聴く・いのちの電話から」を演題に、相談を受けるときの心構えを学びました。

最後に、今年の大会も関係機関・団体のみなさんのご協力により、「社会を明るくする運動」の社会的な意義について理解を深めることができました。



心から感謝を申し上げます。大会の報告とします。
(実行委員会事務局)

第六十四回社会を明るくする運動作文コンテストを小中学校に募集したところ、例年の倍以上の小学校六校二十四作品、中学校四校二十三作品の応募がありました。県推進委員会で審査の結果、小学校の部で、赤江小学校の近藤優妃さんの作品が優秀賞に選ばれました。おめでとうございます。

小学生の部優秀作品

島根県BBS連盟会長賞

未来を明るくするために



安来市立 赤江小学校6年 近藤 優妃

このごろ心が痛くなるようなニュースをたくさん見ます。いじめにあつて自殺するニュースや、大人が子供をゆうかいするニュースや、子供が親を、親が子供を殺してしまふニュースまでありました。

私はこのようなニュースから特に私たちの身近ないじめについて考えてみました。

いじめに「境界線」はないと思います。どこまでがいじめで、何をしなかつたらいじめじゃないなんてことは決まっています。人が嫌がるとわかつていながらしてしまふことがいじめだと思っています。私も友達からきずつくことを言われたり、悲しくなる態度をされたりした時、とても落ちこみました。そして今まで楽しかったことすべてがいやになり、家から出

なくなりました。

でも自分がされた事はすぐわかるけど、自分も人をそんな気持ちにさせた事があるんじゃないかと考えてしまいました。

「自分がされたり言われたりしていやなことは、絶対友達にしたらいけない。」

だけど友達から仲間はずれにされたくないからいっしょに悪口を言ってしまったこともあります。その時は決して楽しい訳ではなく、言われている人は悲しいだろうなという気持ちの片すみがありました。

そして後から、どうしてあの時、「悪口を言うのはやめよう。」と言う勇気が出なかつたことに腹立だしくなつてしまいました。そして自分にもやもやとした気持ちが残ります。

自分がいやなことをされて落ちこんでいた時、そんな私に気付いて声をかけてくれた人がいました。その時私は、私の気持ちを分かつてもらえてすこく温かい気持ちになりました。人にいやなことをする人がもてるん一番悪いと思います。でも、その人に

「あなたの言動や行動が人をきずつけているんだよ。」

という言葉を、周りの人が教えてあげることが大切だと思います。

これはすこく勇気のいることです。でもこの勇気によってその人が自分が悪いということに気付いてくれたら、心を立ち直らせることができます。

人は一人では生きていきません。人の心を立ち直らせるには、周りの人の支えや理解が必要だと思いました。

今年、小学六年生になって、私は他の学年と遊んだりして交流する係をつくり、担当しています。準備をするのは大変ですが、私はこの係をつくつてよかったと思っています。いっしょに遊んでいる時も楽しいのですが、終つてからがつつてもいいからです。ろう下ですれ違つた時に声をかけ合つことがあり、学校の中に仲間が増えた感じになりました。そんなかん境がベストだと感じたいからです。

二期はこの係活動をさらに進めていく予定です。二百六十三名の学校全体が本当の仲間と言えるように努力したいです。

そして私は身近な事からちよつとした勇気を出して、きずつく人が出ないようにしていきたいです。私ができることは、こんなちよつぽけなこともしれませんが、これが未来を明るくする手助けになればいいなと思います。

この世の中ですべての人がみんなを思いやり、支えあい、明るい未来へ向つて生きていきたいと思っています。私をはじめとして。

中学生の部優秀作品

安来地区保護司会長賞

笑顔の大切さ



安来市立第二中学校3年 勝部 真由

「こにお住まいですか。」と質問したり、昔の戦争の事などの話をしてくださったりと、とても楽しい時間でした。でも、なかには会話が難しい方もたくさんおられました。そんな方には大きな声で何度も話してあげると、笑顔になられました。それがとてもうれしく、私も笑顔になりました。そのとき「笑うことっていいな。」と改めて思いました。

私の周りには、たくさん笑顔があります。その笑顔は、大切な友達や家族とのたわいもない、だけど楽しい会話があるからです。今、こうして毎日楽しく過せるのは、とても幸せなことと、自分を支えてくれる人がいるからです。そう深く思わせてくれたのは、三日間の職場体験学習でした。

私は老人ホームで働きました。そこは、その老人ホームが自分の家のようになっており、ずっと暮らしておられる方も多くおられます。そこでは、たくさんさんの仕事を体験しました。一番した仕事は、お年寄りの方との会話です。お年寄りの方たちは、私たち中学生が来て、とてもうれしそうでした。「どの中学生」と質問されたり、「ど

の方は、相手を思い、私の目には届かない、とても細かいところまで、お年寄りのために全力で働いておられました。そうした職員の方の優しさのおかげで、お年寄りの方の笑顔がたくさん見られ、笑い声がたくさん聞こえているように思いました。私は、介護の仕事はとても大変だけど、優しさがあふれているいい仕事だと思いました。

あるとき、職員さんの仕事風景をみていると、一人の職員の方が一人のお年寄りの方と会話をしている様子が私の目にとまりました。そのお年寄りの方は、毎日ずっと「家に帰りたい。帰らんといけん。」と泣いておられました。職員の方は勝手に帰ろうとしているおばあさんを怒る事なく、優しく「おばあさん帰るのは明日にしましょう。私が乗せてあげますけん。」と泣いておられました。おばあさんは、落ちつくと言われ、帰るのは明日にしますわ。」と言われました。私の目の前には、このよう

なやりとりがたくさんありましたが、職員の方は、一人一人のお年寄りの方を受け入れて、優しく、ていねいに接しておられました。それだけでなく、職員

の優しさがあることに、あたたかみを感じました。そして自分の優しさが人を笑顔にできることを実感しました。そして自分が笑顔になれるのは、自分のために何かをしてあげている周りの人の支えのおかげということ

を学びました。

NPO法人 伯太町共同作業所 チューリップの里



代表 昌子 幸枝

「チューリップの里」は、障がいのある方に生産活動の機会を提供し、自立を支援する施設です。障がいがあることで、働くことも諦め家に閉じこもることがないよう、通所して頂き、生きがいや働くことの喜び、輝ける場所を一緒に探しています。

作業内容は①花球根袋詰め等の下請作業②手芸品・石けん製造販売③チューリップ栽培・切花販売④アールミ缶収集・搬入⑤ダンボール貼り合わせ内職⑥老人センター等の管理（清掃や受付）等を日々行っています。これらの作業で得た収入から必要経費を差し引いた残りを工賃として利用者に支払っています。職員一同、工賃ができるだけ上げるよう、作業効率を上げる工夫や、利用者一人ひとりの技術指導等に力を入れています。運営資金は、市からの給付費と利用者の負担金（所

得に応じて発生。0円の方が多い）と正会員（二千五百円）賛助会員（千円）の年会費、みなさまからの寄付金で行なっています。現在通所者十三人、職員六人、会員二十四人です。通所者の人数が少なくなると、市からの給付費が少なくなる為、運営が厳しくなります。伯太に一つかない作業所の存続のために、通所者の確保が必要です。

地域の方の支えがあつて成り立つ作業所です。今後ともご理解とご協力の程、よろしくお願い致します。興味のある方は是非ご連絡頂きますようお願い致します。

春にはチューリップ祭で切花販売を致します。作業所の皆で育てたチューリップを是非見に来て下さい。（電話 37・0188）



更女だより

視察研修

安来地区更生保護女性会 副会長 山崎 光恵



安来地区更生保護女性会では、年一回総会を兼ねて視察研修を行っています。

今年、十月二十日に三十一人で、松江市奥谷町の島根更生保護会を視察しました。

この施設は、刑務所や少年院を出て、帰る所のない人たちを一時的に保護し、支援して再出発を支える施設です。定員二十名で、現在は十六人の入所者があるそうです。

高齢者や障害のある人もいるので、車いすに対応した個室をはじめ、随所に工夫を凝らした構造です。

地域の人たちとの交流も盛んで、各種レクリエーションもいろいろ取り入れてあり感心しました。

住んだら出たくなくなりそうな所ですが、最長六か月しか住む事が出来ません。

ここにいる間に仕事と住む所を見つけ、自立しなければなりません。

ここを出た全ての人たちが、二度と罪を犯すことのないよう、立派に更生出来ることを願いながら、この施設を後にしました。

広瀬地区

私たちの活動

広瀬地区更生保護女性会
会長 昌子 薙江

私たちは百人の会員がいます。いろいろな活動していますが、毎年「愛の募金」活動を頑張っています。集まった募金は、更生保護女性連盟、保育所、幼稚園、そして小・中学校に、愛の図書として贈ります。



伯太地区

伯太の現状について

伯太地区更生保護女性会
会長 渡辺 慶子

伯太地区は、安田・母里・井尻・赤屋の四地区があり現在会員九十五人。昭和三十七年に結成され今日に至っており、毎年「愛の募金」は、主な活動です。四つの地区より選出された役員は十二人で様々な協議を行い、地区それぞれでミニ集会を開催し活動に取り組みます。会員は二年に一回施設訪問研修を行い会員相互の親睦を深めます。これからは、会員としての研修を行い、小さいながらも地域に根づく活動を行っていきたいと思っています。

顕彰式典で受彰

十一月二十日、安来市民会館で平成二十六年年度島根県更生保護大会が開催された。おめでとうございます。

●中国地方更生保護委員会
委員長表彰

●中国地方保護司連盟
会長表彰

●藍綬褒章
上田 眞 實

●法務大臣表彰
岩田 拓 郎

●全国保護司連盟会長表彰
岩崎 哲 久

●島根県保護司会連合会
会長表彰
倉本 洋 子

せせらぎ

子のため？ 親のため？

保護司 岩田 拓郎

日本創成会議は、2040年、全国で896の市区町村は「消滅可能性都市」との推計を発表した。今や、自治体にとって少子高齢化、定住・子育て対策など最重要課題である。子育てをしやすい環境を整え、わが町に住んで子どもをたくさんつくってもらえばまちは発展する。認定子ども園も同じ視点だ。親（子育て世代）への支援は本当に大切なことだと思うが、一方で

子どもや若者、高齢者の立場に立った施策はどうだろうか。

新潟県三条市では、乳幼児から就労（35歳）までを対象に虐待、障がい、不登校、非行、ひきこもりなどの問題に継続的かつ総合的な支援を行う「子ども・若者総合サポートシステム」を整備している。教育委員会を中心に、関係組織・機関が連携して支援する体制が出来上がっている。親の都合で子育て支援、子の都合で福祉施設が作られていないか。人類は、児童に対して、最善のものを与える義務を負っているのである。

第十四回「アゲいっしょ」大会

この大会は、平成十三年度から青少年の親善と健全育成を図る目的で、安来地区保護司会が「社明運動」の一環として共催しています。今年も安来市周辺のスポーツ少年団がたくさん集まり、熱戦が展開されました。

○野球大会

九月二十日、あらえっさスタジアムで開会式が行われました。野坂啓二大会長の挨拶、近藤佳郎保護司会長の激励の挨拶の後、二十九チームが八会場に分かれて試合を行いました。二十一日の決勝戦の結果、優勝は、淀江スポーツ少年団と高松野球スポーツ少年団、準優勝は、広瀬スタッグスと宇賀荘・南ベースボールクラブ、三位は、荒島ドリムスと城西レッドスターズでカップとメダルが授与されました。



○バレーボール大会

十月十三日に開催予定でしたが、台風のため延期され、十一月三十日に安来高校と三中の体育館で開催されました。十六チームが二会場に分かれて熱戦を展開しました。その結果、優勝は、伯太クラブジュニア。準優勝は、しまねマリンWISH。第三位は、就将少女バレースポーツ少年団と竜之口JVCでした。



○剣道大会

十一月二十四日に安来市民体育館で、二十七団体、三十九チーム、二三七人の選手が熱戦を繰り上げました。結果は次の通りです。

団体戦

- 一位 法吉少年剣道会A
- 二位 安来剣道
- 三位 塩冶剣道
- スポーツ少年団A
- 朝酌剣道会A
- スポーツ少年団

個人戦で地元の入賞者は次の通りです。

- 女子四年以下の部
- 一位 錦織和奏(安来)
- 男子六年生以下の部
- 二位 実重奏映(安来)
- 男子四年生の部
- 三位 山根優也(広瀬)



演武披露・安来剣道スポーツ少年団



選手宣誓・安来の錦織選手

安来地区保護司会役員名簿

(平成26年12月1日現在)

会長	近藤 佳郎(広瀬)
副会長	長妻 久良(伯太)
常任理事	田中壽美夫(安来)
理事	村社 征利(安来)
理事	仙田 芳弘(広瀬)
理事	秋間 近夫(伯太)
理事	岩崎 哲久(安来)
理事	榎野 光範(安来)
理事	小村 修司(安来)
理事	少林 浩道(広瀬)
理事	福田 瑞枝(安来)
理事	矢田 博美(安来)
監事	安部 良江(広瀬)

保護司の異動

退任保護司

平成25年11月30日 田口 君枝(安来)

新任保護司

平成26年6月1日 柏 真知子(安来)

部会名簿

(平成26年12月1日現在)

総務部会	近藤 佳郎	長妻 久良
	田中壽美夫	村社 征利
	榎野 光範	福田 瑞枝
	小村 修司	少林 浩道
研修部会	秋間 近夫	田中 篤美
	安達 紀雄	仙田 芳弘
	岩崎 哲久	原 玉子
	小池 清水	葉田 茂美
犯罪予防部会	池上 幸秀	藤原 常義
	上田 眞實	細田美佐子
	柏 眞知子	安部 良江
	岩崎美枝子	山崎 光恵
	今井 昭紀	
協力組織部会	岩田 拓郎	遠藤 史則
	安達 紘二	佐瀬 宏洋
	矢田 博美	岩田 京子
	山崎 武道	倉本 洋子

図書券料を贈呈しました

毎年、中学校へ、読書によって健全育成がはかられるよう図書券料を贈呈していますが、今年は、広瀬中と伯太中へ訪問し贈呈しました。



編集後記

第23回島根県更生保護大会、地元安来での開催を無事に終えました。関連記事掲載のため、発行が少し遅くなりました。地域のNPO活動紹介を連載化するなど、新しい企画に挑戦した本号です。原稿をお寄せいただいた皆様にお礼申し上げます。

この地域での更生保護活動の様子がご覧いただけます。

(編集長)